

令和7年度 第4回 高砂市総合政策審議会 全体会

議事録

開催日時	令和8年1月30日（金）10:00～12:05					
開催場所	高砂市役所分庁舎1階 大会議室					
会長	田端 和彦 会長					
副会長	浦山 剛史 副会長					
委員 (名簿順、 敬称略) 出席者	出席	中尾 進	出席	阿部 伊三男	出席	松井 藍
	出席	松本 克英	出席	前田 弘子	欠席	塩崎 篤史
	出席	寺延 順市	出席	山里 護	出席	浜田 耕資
	出席	濱中 美佐子	出席	竹内 茂雄	出席	中井 八重美
	欠席	眞榮 和紘	出席	西牟田 和子	欠席	松田 勝巳
	欠席	東野 アドリアナ	出席	稲垣 稔	出席	大西 正起
	出席	後藤 純次	欠席	大森 裕	出席	新井 誠三
	出席	漣 隆司	出席	飯塚 一哉	欠席	逸見 信也
	出席	藤田 光人	欠席	大竹 良次	出席	山田 隆広
	出席 (代理)	野北 浩三				
議事	<p>協議事項</p> <p>(1) 第5次高砂市総合計画令和7年度実施計画の最終評価について</p> <p>(2) 第5次高砂市総合計画後期基本計画の答申(案)について</p> <p>(3) その他</p>					
資料	<p>事前配付資料</p> <p>第4回高砂市総合政策審議会次第</p> <p>高砂市総合政策審議会委員名簿</p> <p>資料1 第5次高砂市総合計画実施計画令和7年度実施計画</p> <p>資料2 「第5次高砂市総合計画後期基本計画(素案)に対する意見公募(パブリックコメント)の実施結果について</p> <p>当日配布資料</p> <p>資料3 答申(案)</p>					
議事の経過						
<p>開会</p> <p><資料の確認></p> <p><進行について説明></p> <p><出席者・事務局紹介></p> <p><会議の成立></p>						

<市長挨拶>

第5次高砂市総合計画後期基本計画の策定に向けて、令和6年度から検討を進め、令和7年5月に本審議会で諮問させていただいて以降、これまで基本的な考え方や評価指標、人口展望等についてご審議いただいた。皆さまからいただいた多様な視点に基づくご意見は、計画内容の充実に大きく寄与しているものと考えている。

本日の審議会では、例年の総合計画実施計画の評価に加え、先般実施したパブリックコメントの実施結果について事務局から報告し、これまでのご議論を反映した答申（案）についてご審議をいただく。

皆さまには、引き続き、それぞれのお立場でご専門の見地から、実効性のある計画となるよう忌憚のないご意見をお願いします。

<会長挨拶>

忙しい時期で衆議院選挙も控えている。選挙は住民の意思を反映する場であり、代表制民主主義における非常に重要なものである。

一方で、行政施策を立案するにあたって、どのように住民の意見を把握していくかも大きな課題である。その意味では、高砂市の後期基本計画は皆さまのご意見・ご意思を最大限取り入れたものだと考える。

ただし、一部、まだ修正が必要か否か。そして、本当に適切か否かを確認する必要がある。そのため、皆さまからは忌憚ないご意見をこの場でいただきたいと考えている。

協議事項 1

第5次高砂市総合計画令和7年度実施計画の最終評価について

(事務局)

資料を基に最終評価に向けた実施計画の審議会評価及び意見について説明

(会長)

これまでの審議会で議論が及んでいない箇所についてご説明いただいた。政策やその内容について、各グループでご議論いただきたい。

本日、時間が限られているため、いただいたご意見に対して都度ご回答はできない。次回5月頃の審議会の際に、本日いただいたご意見を踏まえた市の最終評価を事務局からご説明いただく。

<グループワーク>

(会長)

それでは各グループのご議論の内容を発表いただきたい。

(委員)

政策1-1の地域子育て支援拠点事業について、子育て支援センターの利用者数は今年度の中間実績が9,106人となっており、目標の半分にも満たない。少子化の影響やこども園等に預けるこどもの低年齢化により、今後利用者が減っていくと考える。対策として、児童館のような機能が必要ではないか。小学生の放課後の受け入れなど、こどもを受け入れるところが統括できればよい。

政策1-3の男女共同参画のセミナーについて、子育て世代の女性へのセミナーは開かれている印象だが、子育てを終えた方、女性で活躍されているような個人事業主へのセミナーや交流会を増やしてはどうか。

政策1-4において、免許返納に関する意見が出た。免許を返納したくとも、他の移動手段が十分でないため、返納できない人もいるのではないかと。また、老人クラブでも運転できる方が送り迎えをしているが、家族からの反対もある。そのような背景から、例えば、コミュニティバスの本数や介護タクシーの台数などにより、移動手段について評価してもらいたい。

(委員)

政策1-1に関連して、こども食堂が増加しているという話があった。今後更に増加した際に、こども食堂という名称を使った商売が出てくるのではないかと危惧している。この中で、市として何らかの基準を設ける必要があるのではないかと。また、目指すべきもの等、なんらかの指針が必要ではないかと考えている。

政策1-4について、福祉総合相談センターでの相談数が増加している。福祉総合相談センターができたことにより、障がいを持っている方やその家族の方が相談に行きやすくなったとの話を聞いた。ただ、福祉総合相談センターは土日祝日が休みとなっており、仕事をしていると相談

しづらいという現状がある。センター内にカフェもあるが、土日祝日にもランチを利用できればよいとの意見があった。

(委員)

政策3-2において、自治会加入世帯数で評価をされているが、例えば世帯員が2人から1人になった場合、この数字は減らない。人口減少の中、世帯数よりも会員数の方が重要ではないか。

また、地域交流センターの運営協議会に関連して、その協議会委員の方からは、会議が始まるも「次に何をしようか」と発想で行き詰まることが一番の課題だとのこと。例えば、市からコーディネーターを派遣する等、活動の支援をしてもらいたい。

公民館が地域交流センターに変わったが、それを知らない住民も多い。変わったことで施設を使える幅が広がったが、結局活動しているのは、これまでも活動していた団体となっている実態がある。更なる周知が必要だと考える。

政策3-4について、評価項目の設定が難しい。図書館の貸出者数については、蔵書が増えなければ増加が難しい。また、スポーツ施設として総合体育館アリーナの稼働率が指標に設定されているが、市民の肌感覚としては、今年度の夏で終了した市民プールの方がより幅広い方が利用し、関心も高いと考える。行政の方と市民の感覚が本当に一致しているのか。

政策4-4について、学校も含めて公共施設全体が老朽化している。また、水道の老朽化も問題である。財政調整基金は貯まればいいというものでなく、うまく使っていく必要がある。その中で優先事項を決めること、いかに機能を維持しながら出費を少なくしていくのが重要である。これは総合計画の中でなく個別計画のものだと考えるが、意見としては残していただきたい。

(委員)

政策3-2について、自治会自体が減っている自治体も多い中、8割の加入率は高いという意見で一致した。グラフの見せ方として、例えば目盛の範囲を0から3万3000までとすると、非常に高い水準で安定している見え方になると考える。一方で自治会活動への参画自体は減っているのではないかという意見があった。対応策として、若い世代の方々の活動参加を促す仕組みが必要ではないか。

政策3-4について、総合体育館アリーナの稼働率が77%と非常に高い水準になっている。大手スポーツ用品メーカーが協力、参画されていることが要因として考えられる。

図書館については、リニューアルされて交通の利便性も良くなり、稼働率・満足度の向上につながっているのではないかという意見が出た。また、貸出数が指標になっているが、高校生が自習をする等、本を借りてはいないが利用している方も多い。貸出者数だけでなく利用者全体を見た指標を設定してはどうかという意見も出た。

政策4-4について、市税の徴収率が96.8%となっており、非常に高い水準であるという意見で一致した。財政調整基金については、令和元年度の15.7%から令和6年度は27.3%と増加している。増えることが必ずしもいいとは言えないため、何に使うかを検討することが市民の満足度につながっていくのではないか。

(会長)

続いて、これまでの審議会でご意見が少なかった政策2-4、3-3、4-3、また、その他

の政策について議論をお願いする。

<グループワーク>

(委員)

政策2-4の主要な事業にある地球温暖化対策事業について、私も補助金を申請したことがある。ただ、その浸透率・認知度は低いイメージがある。更に周知に取り組むことで事業の推進につながっていくと考える。

また、新電力会社が設立され、売電に伴う地産地消の流れが進んでいることは評価につながるものとする。個別の項目に関しても、他社との連携など一部進展が見られる動きもあり、目標に対する今後について期待が持てる内容だと考える。

政策3-3に関し、市民満足度調査において、世代別では20代が一番「愛着・親しみを持っている」の評価が高い。しかし、人に移住を勧めたいかとなると評価が下がるのとのこと。その点からも認知度を高めるPR等の取組が更に必要になってくると考える。

また、外国人登録人口の増加については、各企業の外国人雇用を増やす流れに沿っているものだと考える。

政策4-3について、市役所から報道機関への情報提供件数が増えることが何を意味するのか曖昧だと感じる。

オープンデータ化、防災の取組については常に進められているため、更に伸ばしていただきたい。

また、私自身はコンビニ交付を知らなかったが、市でマイナンバーカードの申請促進をされていることもプラスに働き、利用者数が増え、事務の効率化にもつながっていると考える。

文書管理の適正化についての進捗度が高いが、市で開催される会議においては資料を印刷物で郵送されるケースが多いと感じる。これらを再考していただき、適正化を進めることで、より効率的に紙を減らすことができるのではないかと考える。

(委員)

政策2-4について、ごみの排出量の減少は望ましいことだと考える。ごみ袋の統一化によりごみ袋の使用を減らそうという意識と、ペットボトルのリサイクルなどに対する市民の習慣化が要因ではないか。リサイクルの取組も市内でも進んでおり、SDGsの観点からも望ましい。

政策3-3について、高砂市への愛着が高く、住みやすいと考える人は20代で特に多いが、他の人に勧めたいか否かについては評価が低い。一度市外に住み、戻ってきて他自治体と比較した際に、印象がどのように変わってくるのかは考え方の一つの視点として必要だと考える。そして、近隣自治体への転出をいかに抑えるかが重要だと考える。東京、大阪といった大都市への転出は就職や大学進学を考えると仕方がない。40代、50代になって、戻ってきたいと思える地となるかどうか、愛着度に大きく関わってくると考える。

また、観光については、観光客入込数が増加傾向にあり、情報発信もされているため、着実に効果が出てきているものとする。市内に住んでいながらも、意外に知らないケースもあるため、観光の取組を進めるとともに、児童・生徒の学びの一つとしてうまく活用していただく必要があるのではないかと考える。

ふるさと納税については、返礼品の扱い等、今後の国の考え方に大きく左右されると思うが、今後の税収にとって大きなものになってくると考える。

政策4-3の報道機関への情報提供については、内容として良いものが多ければそれが望ましい。しかし、以前の審議会でも意見があったように、良いことでも悪いことでも、まずは知ってもらうことが重要である。そのため、内容に関わらず、より多くの情報提供が必要だと考える。

また、コンビニ交付について、今後窓口業務を減らしていくためにも、交付件数を増やしていく必要がある。それにより、他の重要なところに人員を割いていくことで、庁内の人材確保に関しても検討していけばよいのではないかと考える。他自治体では、窓口交付よりもコンビニ交付の方が料金が安いところもある。市役所の収入は減るかもしれないが、これにより、他の課題にも取り組むことができると考えるため。ぜひご検討いただきたい。

(委員)

政策2-4について、前提として、市のやり方・方向性は間違っていない。その中で疑問に思った点について意見を述べる。広域ごみ処理施設を2市2町で連携して建設した。当然市民の税金が使われている。そこで発電した電力を地産地消する目的で地域新電力会社を設立している。その電力の提供先は学校や公民館等、2市2町の公共の施設に供給されるとのことである。エコクリーンピアはりまは、市民でも様々な話をした中で建っている。そこで考えていただきたいのが、一般市民に対する還元という点である。考え方の一つとして、目に見えるようなかたちで公平に市民の皆さんに還元があってもいいのではないかと意見する。

(委員)

政策3-3に関し、以前部会でも発言したが、若者の定着が難しい。その中で、実際に若い人に話を聞いてみた。

その人は高砂出身で市外に住んでいる。高砂市には祭りが盛んであること、同級生がいることから、愛着はとてもあり、結婚後も帰ってきたいという思いもある。しかし、毎日の生活を考えると、店舗が少なく、赤ちゃんの服を買いに行く場合も場所が限られ、他の買い物もする場合は1箇所ですべて完結しない。1箇所ですべて完結するところに行くと、非常に混雑しているとのこと。その人は今の住まいが子育てに向かないと考え、引っ越しを考えている。通勤の関係で鉄道の利便性から、明石市が第1候補となっている。

そのため、高砂市の鉄道を含むインフラ関係の整備や毎日の生活の利便性が確立されると、若者が返ってくるのではないかと考える。

政策4-3の市ホームページに関し、若者世代から見づらいとの話をよく聞く。市公式LINEやInstagramを確認するが、詳細についてはホームページを案内され、どこを見てよいか分からなくなる。ホームページの改編は、多くの部署が関わっているため、大変な作業だとは思いますが、それを変えなければ様々な事業の認知度は上がらないと考える。大変な作業ではあるが、市職員の皆さんには頑張ってもらいたい。

(委員)

政策2-4における新電力会社の設立について、ゼロカーボンシティ宣言をしている中、そこで出た利益により、事業自体が非常に強化されていると考える。今後、新電力会社で得られた取

益について、例えば地球温暖化対策に深くつながる事業に還元されているなど、目に見えれば社会の理解も変わってくるのではないかと考える。

森林整備について、多可町とも連携されており、引き続き他自治体との連携を深めていただきたい。

政策3-3の移住・定住にも関係するところで、政策2-1において、高砂市が2市2町で一番空き家の割合が高く、課題となっている。そのため、祭りが盛んな地域であることから、それを活用した取組など、他市町で実施していない独自の取組をするのも一つの方法だと考える。

また、先日の火事で緊急車両がなかなか入れなかったとのことを聞いたため、区画整理についても今後の課題だと考える。

政策4-3についても、様々な事業をされているが、地域の方も参加していただけるような動機付けをしっかりとしていきたい。デジタル地域ポイント事業も地元企業の協力も必要だと考えるため、PRを強化して参画される方が増える取組を期待したい。

(会長)

大変貴重なご意見をいただいた。最終的な報告については次回審議会ですべてさせていただく。全体として指標の適切性についてご意見があった。実態がきちんと把握できるか、指標の傾向が目的に合致したのか。少し課題も示されたと考える。

市民の利便性を高めることで満足度が上がるのではないかとのご意見もあった。これには工夫も必要だが、業務効率が下がっているものには設備への対応が必要ではないかとのご意見も賜った。

そして、情報発信についてはなかなか難しいところである。なぜなら、ホームページに記載される内容は必要なことだけであり、まちの特徴などは載せづらい。それが若者に対する吸引力の限界なのではないかと考える。

協議事項 2

第5次高砂市総合計画後期基本計画の答申（案）について

（事務局）

資料を基にパブリックコメントの実施結果、答申（案）について説明

（会長）

皆さまにご議論いただいていたものがようやく最終的な形になってきた。前回の審議会で人口問題について皆さまからご意見をいただき、現実的なところで修正すべきとのことから、人口展望を修正した。

この後期基本計画は市民の幸福度・満足度との関係を踏まえて作成した内容である。1番大きな変更は、市民の幸福度を重視しているところ。人口だけではない部分を重視しているところである。

後期基本計画については、議会の承認が必要である。その議会からは重点評価指標について、客観的指標よりも満足度に係る主観的な指標が多いことが行政計画としてどうかという疑問があったと伺っている。

私としてはこの考え方に問題はないと考える。高砂市に住むことに対し、必要なものは行政として当然準備する必要があり、それはできている。しかし、例えば先ほど話題にあった福祉総合相談センターについては、センターの設置という必要条件是満たしている一方、土日祝の営業等、市民にとっての十分条件を満たしているかと問われれば、十分ではない。それらは満足度に影響を及ぼすものである。そのため、客観的な指標だけではこの十分条件の評価が難しく、主観的な指標も併せて捉える必要がある。これが重点評価指標の考え方に問題がないと考える理由である。

これらを含め、皆さまからご意見があれば賜りたい。

（委員）

実際の事業をあれもこれもと全てに取り組むのはとても大変である。重点評価指標の5つ目の「施策の認知度」に関連するが、その中で高砂市として力を入れて取り組んでいるものをぜひともホームページのトップページに押し出してもらいたい。市民との連携という点からも、推進・励みにつながるホームページを作成してもらいたい。

（会長）

やはりホームページはインパクトが必要だと考える。

他にご意見なければ、この答申（案）で進めたいと考える。この後、市長に答申する流れとなるが、よろしいか。

（委員一同）

異議なし

（会長）

それでは本内容で答申をさせていただきます。

協議事項 3

その他

(事務局)

次回の審議会は5月の開催を予定している。

正式な通知は後日させていただくが、ご出席をお願いする。